

ワークショップ「高齢者と多世代交流による新しいコミュニティの形成」

WS1 高齢者主役の多世代交流型コミュニティの形成

柏市高柳地域 「多世代交流型コミュニティ実行委員会」代表 常野正紀

はじめに

柏市は千葉県北西部にあり、2016年人口は402,300人。65歳以上の高齢者は24,7%。9,5人に一人が75歳以上で、高齢者（65歳以上）と生産年齢人口（15～64歳）の比率は1対2,5になっている。（全国平均1対2,3）

また、出産や子育てから若い女性に着目すると、25歳～35歳の人口は11,5%で、全国平均は（10,9%）となっている。

高柳地域を見てみると自治会は危機意識を持っていた。住民の70%が40年前の宅地開発で転入し大多数が高齢者となっている。高齢化社会に対応した地域の将来に不安を持っている。

アンケート調査

住民相互に協力する雰囲気がある・78,3%

住民の世代間交流は盛でない・・・71,5%

多世代が交流できる場所が必要・・・84,3%

少子・高齢化・核家族化は確実に進行。多世代交流を促進し高齢者を活性化しながら地域の子供を育成する事業の展開が必要。

事業展開の目的

わが国最大の問題「少子高齢化・核家族化」の問題を逆手に取り、増加する高齢者の知識と経験を活かして、経験の乏しい地域の子供たちを育てる活動。

3世代同居の家族は10%程度で、地域で子供を育てることは、すなわち他人の孫を育てること。血縁のない地縁でつながった子供たちを自分の孫のように慈しみながら地域で育てる活動。そして、地域で育った子供たちが子育てするときこの地に戻ってきて子育てをしたいと思えるような素敵な地域を作ろう・・・これが活動の目的。

きっかけと活動のイメージ

*少子化 社会情勢・晩婚化・子育てに必要な社会制度の整備遅れで歯止めが利かない。

- * 高齢化 医療や福祉整備で高齢化は加速化で平均寿命・高齢者数で世界一
- * 核家族化 産業構造の変化・都市一極集中化・転勤などで祖父母と同居困難
 (核家族化は大家族と比べ「親子3代による家事育児の分担困難・親世代親世代が子供と接する時間は減少し・子育てに必要な「大人による見守と教育」の機能が失われている。

「これは日本の衰退につながる」

地域ができることを考える「ピンチをチャンスに変える行動」

「子供を見守る大人の数は増えてくる」

地域力を最大に発揮して、「地域が一つの家族」を実現したら「未来への
 希

望が生まれてくる」

皆が理解できる言葉で戦略を展開

地域に有った「課題」と解決に「戦略」

地域が抱えている「二つの課題」

「地域の子育て力が低下している」「高齢者の生き甲斐が低下している」

私達が考えた課題解決の「戦略」

「地域で子育てをすること」が「高齢者の生き甲斐につなげる」

「子供たちは将来の選択肢の幅を広げる」

・・・すなわち・・・

「地域の子供を 自分の孫のように慈しんで育てる 地域づくり」

地縁 (ちえん) の 他孫 (たまご) 事業

を展開した。

鎮守の杜再建を夢見て

昔わが国が貧しい農業国だった時。地域を豊かにするために。大人は地域づくりに努力し。高齢者や親が子供たちを育て、地域全体が一丸となった祭などの協働で絆と体制を確立し、地域力向上を行っていた・・・今なら出来る

スタート時点の課題を糧に

- * 推進母体組織の形成・・・地域の活動団体と協働可能な組織
- * 地域の核となるサロン設置(サロンに来たら、やりたいことが出来る)
- * 地域住民が集まり、交流する仕掛け。(イベントを大型化し協業体制作り)

*学校と連携。幼稚園・保育園・小中学校・高校を対象に大学と地域で対応

*子供・親世代の組織化 親子参加事業・学校行事支援などの恒常化

*見守りが必要な人々との交流（地域全体で展開事業の拡大・・・現在進行中

*具体的なプログラムの実施（イベントとしてではなく恒常的な交流体制）

創設 試行 展開

実施に向けた「事業方針」達成に向けた地域で足りないものの創設

(1) 地域で子育てをする組織

円卓会議 講師 東京大学大学院牧野教授 柏市地域支援課

地域を網羅したメンバー（学校長・町会長・ボランティア団体・企業・農家
柏市・社会福祉協議会・地域住民）

(2) 住民が気楽に集える地域の大広間としての「居場所づくり」

コミュニティカフェの創設

支援者 千葉県・柏市・地域大工・地域住民ボランティア

(3) 運営効率化の「技術革新」

ホームページの構築 広告宣伝費削減 管理のIT化

支援者 地域IT企業（地域出身の2企業）

(4) 事業推進のための「収益構造」

カフェの事業収入（サロン販売・イベント参加費・製作品販売）・朝市展開

(5) まちづくりセミナー

講師 柏市

支援者 公募実生ボランティア

内容 イベント運営の企画立案実践・子育て地域問題解決を絡めた新たなイベントの在り方研究

成果 公募で新たな人材発掘 企画・実践スタッフ体制確立

(6) 高柳祭（地域の祭を地域住民の協力で）

内容 ボランティアの運営から住民による運営に

試行で変革された活動

- 1) 小学校餅つき 農業体験 ステップアップ授業 大学生による実験・料理・地域美化・プログラミング教育 サロンで制作遊び 安全活動
- 2) 中学生のキャリア教育（ロゴマーク・テレビ電話・地域美化・図書館
- 3) 高校 家庭科・保育課・ライフスタイル・地域貢献・看板製作・地域演

奏会

- 4) 特別支援学校 制作物販売
- 5) 地域団体 発表会 サロンで個別活動

今後の課題

ボランティアの参加率向上（特に男性）

後継者の育成